

1 今年度の学校経営計画策定に当たっての考え方

学校経営計画策定に際し、以下の諸点を策定に当たっての考え方として、計画の改善を図った。

- 進学指導重点校への入学が可能でもあえて本校を選択して入学してきている生徒がいる現状を踏まえれば、進学指導重点校における取組に加え、いかに付加価値を与えていくかが重要である。このことから、「学習、探究活動、学校行事、部活動全てに全力を尽くす生徒の育成を行い、『進学指導特別推進校』としての新しい価値を生み出す教育を実現させる。」ことを目標とした。
- 今年度の目標を単に生徒の進路希望の実現とするのではなく、学力向上の基盤となる基本的な生活習慣の確立について「時を守り、場を清め、礼を正す」と設定した。
- 今年度重点的に取り組む項目として、「本質を見極め・課題に正対し・チームで取り組む」を基本的取組姿勢とした上で、一人一人の生徒が希望する進路の実現（難関国立大学と早慶合格者数の増加及び進学指導重点校基準の達成・継続）、及び学びの広がりを目指す地域と連携した探究学習「新宿学」の充実・発展とした。

2 今年度の具体的取組状況について

学校経営計画「4 今年度の取組目標と方策」における「（2）方策」に示された具体的方策の取組状況及び課題は以下のとおり。

方 策	取組状況及び課題
① 進路指導 ア 定点観測（外部模試データ分析・検討会）を1年次生、2年次生ごとに3回行い、学力分析、指導内容・方法の改善、弱点科目克服対策等を行う。（進路指導部、学年担任団、教科担任） イ 3年次生「目線あわせ」等(計4回)を通して個別生徒の外部模試データ等と志望校についての分析・検討を進め、受験克服対策への共通理解を深めるとともに高い志望を維持する指導を推進する。また、1、2年次生についても上記アの分析会の中で、必要な生徒に対し「目線合わせ」を実施し、早期から個に応じた組織的指導を確立する。 ウ 放課後、長期休業日等に補習・講習を積極的に実施し、丁寧な指導により生徒の学力を伸長させる。また、自習室チューターとのオンライン質問コーナーを開設し、自習室以外で自学自習に取り組む生徒が自習室開室時にオンラインで質問できる体制を充実する。	ア 模試分析会については、1・2年次で3回、3年次で計7回実施し、設問ごとの全国得点率との比較等から各科目の指導内容・方法の改善を図った。また、2年次では、難関大学ガイダンスと特別講習を実施した。 イ 3年次「目線合わせ」を3回、新旧拡大学年會を1回(計4回)実施し、生徒の個別データをカンファレンス方式にして、より多角的に個々の生徒を分析した。また、今年度新たに、2年次生において全生徒対象に「目線合わせ」を開催した。 ウ 自習室のチューターに対し、Teamsによりオンラインで質問できる体制を継続し、今後、更なる活用の促進を図っていく。

エ 国公立 2 次試験対策を充実させる。特に大学入学共通テスト後の講習、個別指導を進路指導部が中心となり、組織的・効果的に行う。 オ 英語教育研究推進校として、オンライン英会話の活用や GTEC による英語力の診断などにより、英語教育の改善を行う。 カ 学年集会を計画的・効果的に実施する。各種面談や学習時間調査、進路説明会等も活用しながら、学校行事から学習への切り替え等、進路実現へ努力・邁進する学年集団を維持するよう指導する。 キ 自習室（全ての年次向けに設置、放課後・長期休業日中等に開放）や定期考査前の H R 教室、職員室前の質問コーナーでの居残り勉強等から、仲間と切磋琢磨する共同自学自習を奨励する。 ク 教員の外部研修会活用、先進校視察、英語科海外派遣研修等を行い進路・学習指導改善に努める。 ケ キャリア教育を推進する。高大連携、キャリアガイダンス等の実施や海外交流事業等に取り組む。また、探究プロジェクトを中心に地域企業との連携も図る。 コ 進路指導部と図書部の連携による「新書を読む！」などで読書活動を推進し、知性と教養を培い読解力等の素地を高める。	エ 夏期講習については教科から出された講習案と学校行事（臨海教室）や部活動合宿等との調整を行って、組織的・計画的に実施した。 オ オンライン英会話は 2 年次全クラスが 10 回、GTEC は 1 年次対象に実施した。 カ 全ての年次で学年集会において、学校行事と学習の切り替え等を目的として、学校行事や学習・模試結果等について説明・指導するなど、頻回の実施は定着している。 キ 自習室は、全ての年次で概ね 20 時まで開室し活用が充実した。チューターや自習室支援員に加え教員も配置して組織的な運営を行った。また、学習場所確保の観点から年末年始も開室した。 ク オンラインも含めて外部研修会に参加するとともに英語科教員が海外派遣研修に参加した。 ケ 同窓会の支援を受け、キャリアガイダンスを実施し、東大・東京科学大・一橋大・慶應義塾大・早稲田大等と連携し模擬授業を実施した。また、探究学習「新宿学」において連携企業等を拡大し 26 箇所においてフィールドワーク等を実施した。 コ 図書通信や学習支援クラウドサービスなどを活用して、読書意欲の喚起や学習支援の充実を図った。
② 学習指導 ア 授業改革を推進して生徒による主体的・対話的で深い学びの研究と実践を進める。また、教科主任会を活用し、学習指導を組織的に行う。また、生徒の進路希望を実現させるため目指すべき到達点を明確にするとともに、進路指導部及び教務部で連携し、校内研修や教員相互の授業参観、入試問題研究、模擬試験分析を充実させ、学力調査の結果分析を生徒の学力定着に役立てるなどして学習指導の改善を図る。 イ 全ての生徒の学力到達状況をもとに、取りこぼしのない丁寧なフォローアップ指導を行う。	ア 教科主任会を定例化するとともに、探究的な学び等の推進に向け、研究授業や授業参観を行った。来年度は目的を明確にするとともに、授業公開日や公開週間を細かく設定して教員全員の相互参観を実現するなど具体的な計画立案を行う。 イ 定期的な模試分析会や教科会を学期ごと数回実施し、生徒の学力到達度を分析した。分析結果を基に、補習対象者を決定し、取りこぼしのないフォローアップ指導を行った。

ウ 教科主任会、教科会を活性化し、教科指導を組織的・計画的に行って指導内容・方法の改善を図るとともに、入試問題研究の推進や模試結果分析等により上位層の成績伸張等に取り組む。観点別学習状況の評価方法分析・検証を通し、評価を活かした授業改善を行う。 エ 都立高最大規模の習熟度別授業を国・数・英・化で効果的に行う。教科会で、生徒情報共有、指導内容・方法等の改善、共通考査問題作成を綿密に行う。 オ 予習、復習を習慣化させる。週末課題の提出や宿題、小テスト等の実施、学習支援クラウドサービスを活用した支援により自学自習時間（放課後の自習室での学習や家庭学習時間）の増加を図る。 カ 4教科（保健体育、芸術、家庭、情報）の学習などを、健全な心身や豊かな心の育成、社会性やコミュニケーション能力の育成、知力・気力の源となる体力の向上等、幅広い人間形成のため重視する。 キ 「アートプロジェクト新宿」（文化・芸術作品展示・発表等）を継続する。 ク 「総合的な探究の時間」の授業内容を精選・充実・拡大し、地域協働型の学びによる「新宿学」を本校における新しい学びの起点として実施していく。 ケ 理数研究校等の理系研究活動や英語教育研究推進校の活動を推進する。また、生徒の体力向上などにより東京 2020 競技大会のレガシー構築を目指す教育に取り組む。 コ CYOD による、Teams などを活用したオンライン学習と対面型授業との意図的・計画的な学習指導の展開や家庭学習との融合を行うとともに、教育活動の制限に即応できる授業体制を構築する。 サ 1 年次生からの一人一台端末を活用した学びの構築を期する。あらゆる教育活動において、教育の DX 化を加速させる。	ウ 新課程完成年度に当たり、観点別学習状況の評価について教科主任会や研究授業等において検討を行った。また、進路部主催の模試分析会や予備校等主催の入試問題研究会の資料を共有した。 エ 国数英化体で生徒の学力等に合わせて習熟度（少人数）授業を実施し、定期考査ごとの結果により適切にクラス編成を行った。 オ 各教科で実施するとともに、担任においても各教科の課題提出状況を把握するなどした。今後、教科間で課題の量や内容等について調整するなど更に計画的に実施する。 カ 本年度は、芸術科目においても探究的な学習を推進するとともに、体育では従来の新宿体操に加え、補強運動の SPE を実施し基礎的な体力の向上に努めた。 キ 美術、華道の各部の生徒作品を展示。高等学校文化連盟主催の美術部生徒作品展「中央展」に出展した。 ク 探究学習「新宿学」において、新宿に本社を構える企業や老舗等の 26 社と連携しフィールドワークを実施するとともに、新たに、内藤とうがらしプロジェクト主催「エコ・カル」で成果発表を行った。2 年次では、個人又はグループで興味ある学問分野について大学等へのフィールドワークを行うなど研究を進め、3 月には連携企業及び大学教員等を招いて 1、2 年次合同の発表会を実施した。 ケ 理数研究校として、日本生物学オリンピックで金賞を受賞したり科学の甲子園に出場したりするとともに、大学や岡谷市及びつくば市所在の研究機関等を訪問するなど、先端的科学研究に触れ学びを深めた。 コ 対面型授業と Teams を活用した配信授業を行うハイブリッド授業を実施するとともに、高等学校 DX 化推進事業により、授業に関するハードとソフトの両面の整備を十分に整えることができた。スマートスクール端末を活用する新しいタイプの授業体制の構築と家庭学習の効率化が課題である。 サ 各教科・科目で一人一台端末を活用した授業の展開を行ったり、「総合的な探究の時間」で端末を活用した調査・発表などを行ったりした。
---	--

③ 生活指導（特別活動、部活動を含む） ア 自律的生活習慣の確立を図る。「時を守り、場を清め、礼を正す」の推進に向け、挨拶、時間厳守（含む遅刻防止）、身だしなみ（頭髪等）、清掃指導（含む所持品自己管理）、適切な部活動休養日など、「生活のきまり」や部活動の「総合的なガイドライン」などに基づく指導を徹底して、ルールを守り、マナーを身に付け、人の話を聴く態度を育成する。 イ 特別活動（運動会・文化祭・臨海教室等の学校行事やホームルーム活動）及び部活動・を充実させ、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。「文武両道」を旨として学習との両立を図り「集中と切り替え」を身に付けさせる。 ウ 部活動は「総合的なガイドライン」に基づいて「集中と切り替え」による効率的・効果的な活動を行う。また、学級担任からの模試結果等の情報提供や部活動顧問による啓発指導等を相互連携して行い、部活動と学習の両立を図り部活動の仲間と学習でも高め合い・競い合う態度を育成する。 エ 生徒・保護者・教職員・同窓会による「チーム新宿」の具現化へ保護者会、希望保護者との面談（二者・三者）、部活動保護者会（合同・部活動毎）、P T A 講演会、大学入試説明会などから保護者の理解と協力を仰ぐ。また、同窓会との連携により、保護者会等において、体験談の活用、先行事例の紹介などを行う。	ア 「挨拶の励行、時間厳守、遅刻防止、身だしなみを整える」＝教員の声掛け、ホームルームの指導により概ね目標達成。遅刻は年間を通して全体の 1 日 1 学級当たり 0.72 人と昨年度に比べ微増した。清掃活動及び水筒等の持ち物の管理の更なる徹底について具体的に指導する。 イ 全ての学校行事（運動会、戸山戦、臨海教室、朝陽祭、合唱コンクール、マラソン大会、球技大会等）をコロナ禍前の実施形態に完全復活するとともに更なる発展に向け、生徒に考えさせるよいきっかけとなり、主体性と協働性が向上した。 ウ 部活動ガイドラインに基づくとともに「集中と切り替え」による効率的・効果的な部活動が実施できた。学級担任との成績に関する組織的な連携については、3 年次の「目線合わせ」で実施しており、更に機会を増加させるなどして推進していく。 エ 各行事、保護者会については予定通り開催し、「チーム新宿」のもと、保護者・同窓会等の御理解と御協力をいただいた。
④ 健康づくり等 ア スクール・カウンセラー（S C）、シニアスクール・カウンセラー（S S C）、学校医、関連外部機関との連携を深め、教育相談連絡会や学校保健委員会、学校いじめ対策委員会等を組織的に実施し、カウンセリング活動や家庭と連携した指導、定期的調査等を行って、生徒の健康維持や心のケア、いじめ防止・対応、生命尊重の教育等を推進する。	ア 関係機関の御協力・御支援を得ながら、学校保健委員会 1 回、教育相談連絡会 5 回など継続的・安定的に委員会等を開催し、校内での支援体制を整備・構築して生徒を支援した。
⑤ 防災・広報活動・地域連携 ア 防災委員会を中心に防災課題の解決を図る。特に、地域と協働した防災訓練と避難訓練を充実させる。また、地域の防災拠点としての役割を果たす。	ア 避難訓練については訓練ごとにテーマを設定し実施した。地域との連携による防災訓練については、関係機関から生徒の取組について評価をいただいた。

イ 学校説明会(学習塾、自校作成問題等含む)などの募集対策活動を学校の理解促進に向け効果的に実施する。 ウ ホームページの内容を充実させる。保護者、都民への迅速で適切な情報発信を推進する ⑥ 経営企画室、その他 ア 教育職員と連携した教育活動などを通して経営企画室の経営参画力向上を図る。予算編成、執行等ではセンター執行率を増加させるなど徹底したコスト管理を進める。 イ 生徒の安全・安心な学校生活の確保へ、施設・設備の警備・点検・整備を日々徹底する。 ウ 各分掌等で年度当初の目標設定と月毎の進捗報告によるPDCAを実施して組織力強化を図る。校内研修実施などにより体罰、セクハラ、個人情報等の服務事故を防止する。ライフワークバランスの実現に向け学校閉庁日の実施などの取組を推進する。 エ 一昨年度の百周年を受け、これまでの百年を振り返り、本校の基盤となる考え方や教育活動を整理し、今後百年の在り方について将来構想を考え、長期計画の立案へと結び付ける。	イ 計画的に実施するとともに、入学者選抜前の1月に新たに学校説明会を計画・開催した。また、3月には中1・2年生対象説明会を新たに開催した。今後とも計画的広報活動により安定的な応募倍率を維持する。 ウ 学校における様々な活動を「今日の新宿」のコーナーで紹介して情報発信を適時行った。今後、X等の活用も検討していく。 ア 執行率については、概ね計画的に維持できている。予算編成に当たっては、各種行事の復活、旅費部分の編成など適切に対応できた。 イ 全普通教室24教室の空調更新とトイレ洋式化を実施した。また、防災・備蓄倉庫について、防災委員の生徒の活動として指導・整備した。 ウ 各会議における確認等で適切に対応できた。服務に関しては、企画調整会議、職員会議で徹底し、服務の厳正に努めた。 エ 学校運営連絡協議会、同窓会等と連携しながら、引き続き検討し、次年度以降に策定する。
---	--

【重点目標】		【数値目標】	【6年度結果】（ ）は5年度
最 重 点 目 標	① 大学入学共通テスト7教科9科目受験者の割合	6割以上	75.0% (62.2%)
	② 難関国立4大学・医合格者数	15名以上	17名 (12名) 〔東京2, 京都0, 一橋5, 東科6, 医医4〕
	③ 大学入学共通テスト7教科9科目受験者の総合得点率	80%以上得点率: 20% 75%以上得点率: 35%	80%以上 16.1% (18.9%) 75%以上 33.6% (43.4%)
・国公立大等合格者数 ・早稲田慶応合格者数		国立大学等合格者数 計 100名以上 早稲田慶応合格者数 計 80名以上	国公立 116名 (102) 早慶 108名 (106)
・難関国立4大学出願者数		60名	66名 (53)
・自学自習時間		学年数プラス1～2時間	1年次 1.63時間 (1.70) 2年次 2.82時間 (3.10)
・宿題提出率		学年統一課題: 概ね8割以上	1年次 97% (95%) 2年次 90% (95%)
・大学入学共通テスト総得点全国平均比		全科目平均偏差値+5 (55以上)	16科目/17科目 (16/17) 達成
・学力の定着向上①: 実力試験偏差値の全体平均及び逓減率 (最大母数の外部実力試験2回(7月11月)英数国)		1年次: 70以上 10%以上 60以上 70%以上 平均偏差値の逓減率2%以内 (各科目もこれを目安とする)	70以上: 26.0% (22.6%) 60以上: 91.0% (86.1%) 1年次: 66.5→66.5: ±0%
		2年次: 70以上 10%以上 60以上 50%以上 平均偏差値の逓減率2%以内 (各科目もこれを目安とする)	70以上: 12.2% (18.2%) 60以上: 71.4% (72.9%) 2年次: 62.9→63.3: 0.4% ↑
・学力の向上②: 実力試験偏差値の平均偏差値 (難関大向け外部実力試験(1月))		1年次: 平均偏差値(英数国) 55以上 (各科目もこれを目安)	58.5 (57.5)
		2年次: 平均偏差値(英数国) 53以上 (各科目もこれを目安)	文: 54.6 理: 55.5 (文: 55.2 理: 54.8)
・生徒の学習指導への満足度		概ね80～85%以上	80.3% (88.9%)
・生徒の学習への課題意識と意欲		概ね80%以上	82.0% (92.7%)
・年間生徒個別面談数 ・年間希望保護者面談数 ・年間補習・講習・個別指導時間 (教員一人当たり30時間、2講座開講を目安とする)		・生徒個別面談: 3回 ・保護者面談: 1回	・生徒個人面談: 3回 ・希望保護者面談: 1回
・年間遅刻回数の減少率		1日1学級1人未満 (定期考査ごとに検証)	1日1学級 0.72 (0.65人) 1年次 0.3人、2年次 0.78人 3年次 1.09人
・部活動加入率		概ね90%以上を目安	のべ 110.7 (109.8)
・保護者の本校への満足度		教育方針 95%以上 学習進路 80%以上	方針 92.0%, 学習 82.0%, 進路 85.4% (方 87.2%, 学 83.3%, 進 90.5%)
・入試応募倍率		〔推薦〕昨年度並みの倍率 〔一般〕2倍以上	〔推薦〕 5.3倍 (7.6) 〔一般〕 1.9倍 (2.4)
・ホームページ更新回数		85回	319回 (333回)
・自律経営推進予算・第3四半期 一般需要費執行率		80%	78.3% (学校) 89.4% (センター) (74.2% (学校) 86.0% (センター))